

大地震にも“不動”

復旧見守るアショカ・ピラー

神戸市・妙心寺派祥福寺

インターロック(株)が制作

兵庫県南部地震で被災した神戸市兵庫区五宮町二二、臨済宗妙心寺派祥福寺専門道場（河野太通師家）では、山門倒壊、庫裡・本堂・書院の屋根瓦のずり落ち、構造材の歪み、壁の落下・裂傷、境内、墓園の数多くの石碑、灯籠の転倒など建物の被害のほか、雲衲二人が軽傷を負うなどの被害があった中で、一昨年十月、僧堂の裏山の断崖付近に建立された高さ二・五メートルの「アショカ・ピラー」(重さ約四トン) は、ビクともしなかった。これには河野太通師家をはじめ僧堂関係者らもほっとし、また元気づけられているという。

祥福寺の石柱は、河野師家が世界平和を祈願し、仏法精神の交流のシンボルとして計画したもので、制作の依頼を受けたインターロック(株)（本社・東京）が「サルナート考古学博物館」にある四頭の獅子を戴いた石柱を現地で復刻制作したもの。

祥福寺では現在、僧堂の復旧に向かったの作務もさることながら、近郊の被災寺院や檀信徒各家への作務奉仕として瓦礫を片づけたり“ぜんざい”の炊き出しを行なったり、僧堂の風呂を被災者に開放したり、お見舞い訪問をするなどできる限りの利他の奉仕を実践し、「動中の工夫の好機と心得て、一丸となって復旧に邁進」している。

開眼法要の際に、河野師家は「神戸の街を見渡せるこの地から、世界平和の理念、仏法が世界に広がるようにとの願いを込めた」と語ったが、そのごとくアショカ・ピラーは、祥福寺僧堂による衆生救済の奉仕活動をじっと見守りながら、厳然として聳えている。



アショカ・ピラー制作についての問い合わせは、インターロック(株)（東京都品川区上大崎二ノ一三ノ四五）＝電話〇三（三四四〇）一四〇二＝まで。

兵庫県南部大地震にもビクともしなかった、高さ2.5メートル、重さ4トンのアショカ王石柱の四獅子柱頭【写真は省略】